

配色のイメージ①

カジュアル

カジュアルのイメージは、明るさや活発さ、親しみやすさです。

コントラストがきいた動きのある配色

カジュアルとは、開放的で楽しく、リラックスしたイメージです。気おけない友人や家族と、にぎやかに過ごすプライベートタイムなどにふさわしいでしょう。

カジュアルなイメージの配色は、ト

ーンは純色や明清色から選び、それぞれの色相や彩度に差をつけて、コントラスト感と動きを出すことがポイントです。ビビッドな色がぶつかりあうような、元気な配色をイメージするとよいでしょう。

Sample



◀若いママたちが気軽に楽しくコミュニケーションをとれる場所、というコンセプトのコンビニエンスストア。店内はビビッドな赤・緑・青を配した、若々しく元気なイメージです。<HAPPY LAWSON山下公園店>



▲オレンジと黄がスパイシーなカレー味も思わせる元気な配色は、にぎやかな食事シーンのイメージです。<カレーパン/ヤマザキ>

◀パーティーやピクニックなど、大勢で盛り上がるシーンで活躍するプラスチックの食器。高彩度のマルチカラーはカラフルで楽しいイメージです。



配色のポイント

色相とトーン

色相は、赤～青の範囲を中心にします。中でも、だいたい・黄の色相は特にカジュアルなイメージになります。純色～明清色の範囲を中心にしましょう。

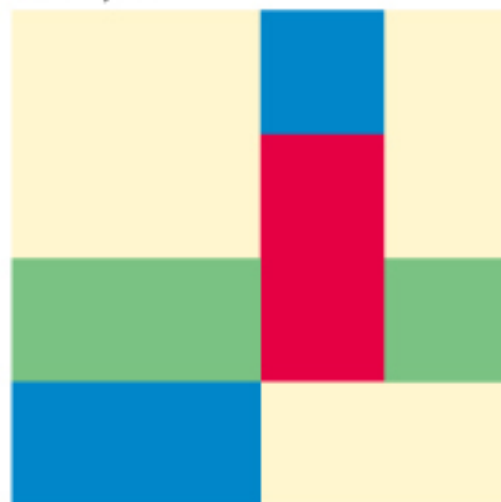
配色のバランス

ベースカラー、アソートカラー、アクセントカラーのコントラストをはっきりつけます。ベースカラーには、中～低彩度の明清色（ライト・ペールトーン）の

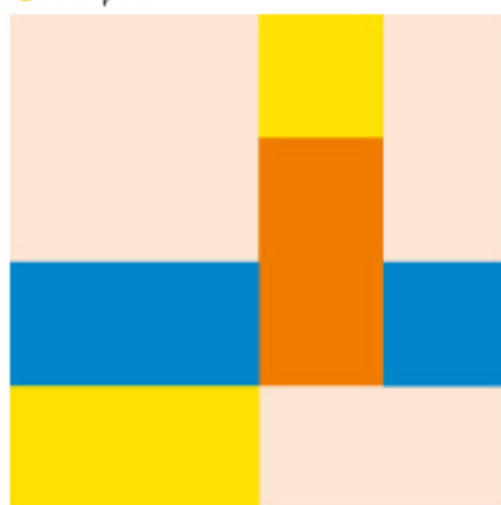
だいたい～黄を選ぶと効果的。アソートカラーはベースカラーと色相や彩度を対比させ、アクセントカラーは高彩度にして、他の色と色相を対比させます。

Sample

▶ベースカラーに低彩度の黄、アソートカラー・アクセントカラーに高彩度の緑・青・赤を用いた例。多様な色相を使って、彩度と色相の両方でコントラストをつけ、にぎやかなイメージにしています。



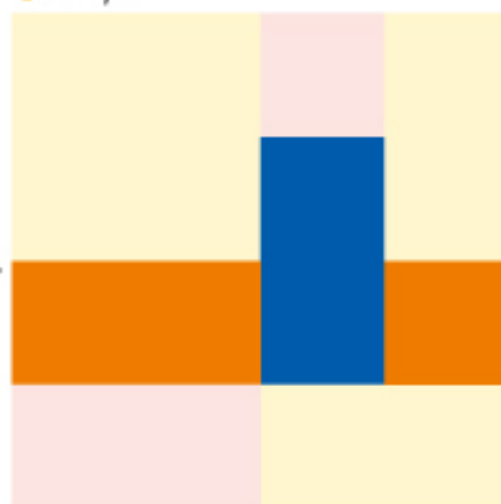
Sample



▲カジュアルの中でも代表的な色相のだいたい・黄の色相を用いた例。ベースカラーは低彩度とし、アソートカラー・アクセントカラーは高彩度としました。青はだいたいや黄と対照色相の関係です。彩度差・色相差が大きい、動きのある配色です。

▶アクセントカラーに高彩度の青を用いた例。青はベースカラーの黄とアソートカラーのだいたい・ピンクに対して対照～補色色相の関係となり、色相差が大きいため、コントラストが大きくついた配色です。

Sample



セミパブリックゾーン

家族の好みを取り入れ 明るく楽しい色でまとめる

セミパブリックゾーンは、家族全員の共有ゾーンです。集まって利用する場合も、一人ひとりが個別に利用する場合もあるため、パブリックゾーンと

プライベートゾーンの両方の要素をもちます。基本的にはパブリックゾーンと同様に、統一の調和を基本に考えますが、やや家族の好みを取り入れることができます。イメージは明るく楽しく、清潔感を感じるようにまとめるとよいでしょう。

ダイニング *Sample*

▶リラックスできて食欲増進を促す、暖色系を中心にまとめます。照明も、温かみのあるオレンジ系の光が良いでしょう。椅子の背や座面、テーブルに飾ったグリーンなど部分的に、アクセントカラーとして比較的、彩度の高い色を用いるのも効果的です。キッチンやリビングと隣接している場合は、共通性のある色を使って調和をはかります。

例の使用色のバランス



浴室 *Sample*

浴室

◀浴室をはじめ、洗面所、トイレを含む水回りは家の北側に設計されている場合も多く、寒さを感じやすい場所です。心理的に冷たさを感じさせる寒色は避け、特に温度感を感じにくい緑などの中性色や、ベージュ系、オフホワイト系を中心にまとめるとよいでしょう。空間も狭い場合が多いため、広く感じられるように明度の高い色でまとめると効果的です。

例の使用色のバランス



プライベートゾーン

個性と目的に合わせて 自由に配色する

プライベートゾーンは、家族の中の、特定の人だけが利用するゾーンです。そのため、利用者の個性や、過ごし方に焦点を合わせた配色を考えます。静かに休息したいという目的がメインの

場合は統一の調和を意識して、同系色相を中心に落ち着いたイメージの配色にします。また、趣味や嗜好を取り入れたいという目的がメインになる場合は、きわ立ちの要素をバランスよく取り入れた変化の調和を意識して対照系の色相を用い、個性的な演出をするのもよいでしょう。

ベッドルーム *Sample*

▶心を落ち着かせて安眠を誘うには、ベッドカバーに青を用いるなど、冷たすぎない中明度・中彩度の寒色系を中心に配色します。刺激の強い高彩度色やコントラスト配色はなるべく避けましょう。照明はオレンジ系など、温かみのあるやや暗い光が効果的です。

使用色のバランス



子ども部屋 *Sample*

子ども部屋 (幼年期)

◀遊ぶことがメインの目的である幼年期の子ども部屋は、たくさんの色にふれることができるよう、ビビッドトーンやブライトトーンの高彩度色を用いて、元気なイメージで配色します。勉強が重視される年齢になったら、集中力の助けにならないよう、気持ちが落ち着く中間色や寒色系を中心にするとよいでしょう。子どもの個性と成長の様子を、しっかり考慮することが大切です。

使用色のバランス

